

	伸ばしたい力	現状の課題	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を正しく読み取る力</li> <li>話す力と書く力を中心とした表現力</li> <li>語彙力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論理的な思考を苦手とする生徒が多い。</li> <li>伝えるべき情報を整理し、順序立てて話す力、書く力が不十分である。</li> <li>文法に関する理解が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を論理的に読む学習活動を授業で繰り返す。</li> <li>スピーチや少人数での話し合いなど、発表の場を多く設ける。</li> <li>テーマを決め、自分の考えを書く機会を増やす。</li> <li>定期的に小テストを実施する。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学習に取り組む意欲</li> <li>社会的な思考、判断力</li> <li>基礎的な知識をしっかりと身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図、資料の分析を苦手とする生徒が多い。</li> <li>論理的な思考に対して苦手意識が強い。</li> <li>基本的な学習習慣がついていない生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料集のグラフ、図を読む訓練を繰り返す。</li> <li>ワークシートの発問の中で論理的思考力を養う練習を行い、統計資料も見やすく、わかりやすく興味深いものにする。</li> <li>小テストを実施する。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な知識・技能の習得</li> <li>基礎的な論理的思考力の習得</li> <li>学習に対する意欲の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つ一つの四則計算から四則の混じった計算に変わると間違いが増える。苦手意識をもってしまっている生徒がいる。</li> <li>論理的な思考に対する苦手意識があり、計算過程よりも結果に対する意識が強い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算練習を多く取り入れ、慣れていくようにするとともに、個別に教える機会を作っていく。</li> <li>指導内容を精選し、習熟度別コースにあった指導方法を取り入れることにより、演習時間や考える時間を多く確保する。</li> <li>日常生活の中から題材を取り上げたり、グループ学習や教え合いなどの言語活動により、学習意欲を高める。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的に考える力</li> <li>科学的に表現する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験や観察には興味がある生徒が多いが、その結果をもとに科学的に考えたり、表現したりすることが苦手な生徒も少なくない。</li> <li>自然や身近な現象などに対する興味・関心が低く、基礎的な内容の習得に時間がかかる生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果をもとに、話し合い活動などを通して考察し、まとめ、発表を行う機会を積極的につくる。</li> <li>なるべく実物を観察させたり、アクティブボードで写真を見せたり身近な材料を取り入れ、自然に対する興味関心を高める。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語を正確に書く力</li> <li>文の構造を把握する力</li> <li>学習したことを活用して表現する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語への興味関心が高く、積極的に音読したりコミュニケーションを図ったりして、意欲的に学習に取り組んでいる。</li> <li>書くことを面倒くさがる生徒がやや多い。</li> <li>音と文字の関係や、英文の語順やルールを理解できない生徒も若干いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回の課題量を少なくし、書くことの負担を軽減するような工夫をする。</li> <li>文字をしっかりと見ながら音読練習に力を入れ、単語と基本文を定着させる。適宜単語を入れ替え発話させ、文型を定着させる。</li> <li>定期的に単語テストを実施し、単語の読み書きの定着を図る。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>音や音楽への興味・関心を養う</li> <li>音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる</li> <li>創意工夫して表現する能力を育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽に対する興味・関心の高い生徒は多いが、知識の習得に対する意欲に乏しい面がある。</li> <li>基礎的な楽典知識が定着しない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽典における基礎知識の定着のため、小テストを定期的に行う。</li> <li>一人一人にあったレベルでの指導を行う。</li> <li>グループで教え合ったり、表現方法を話し合ったりする時間を増やす。</li> </ul>
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な知識と技能</li> <li>美術に対する興味関心</li> <li>課題に即した発想や構想の力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発想力や表現力を養う美術的な経験を工夫する必要がある。</li> <li>制作においてなかなか作業が進まない生徒がおり、個別に指導していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発想・構想力を高めるため、発想・構想のきっかけとなるような参考作品を多く提示する。ICT機器を利用した提示法の工夫をする。</li> <li>個に応じた個別指導をする。</li> </ul>
保体	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたって運動に親しむ力</li> <li>健康の維持増進のための実践力と体力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実技において苦手と感じている生徒がおり、個に応じた対応が必要である。</li> <li>基礎体力が低く、種目の特性に合った動きができない生徒や、精神的に苦しい活動に粘り強く取り組む態度を養う必要のある生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用し「見て理解する」提示法を工夫する。</li> <li>ワークシートの活用や話し合い活動など学習形態を工夫し、言語活動を活性化させる。</li> <li>毎回の授業に、種目の特性に応じた効果的な補強運動を取り入れる。</li> </ul>
技家	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な知識・技能の定着</li> <li>実生活での活用を前提とした技能の習得と技術の評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な学習内容の理解、定着の差が大きい。</li> <li>学習した技術、技能を適切に評価し、実生活に適用することに興味・関心の低い生徒がいる。</li> <li>意図的・計画的な製作に慣れていない面が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した知識を異なった場面で反復して定着を目指す。</li> <li>類似する事例や適用例について考え、発表する機会を増やす。</li> <li>社会や実生活における適用例を評価し、技能を活用する機会を増やす。</li> <li>技術的なものづくりの手順の講義をしてから、順序立てて設計、製作の実習を行っていく。</li> </ul>

	伸ばしたい力	現状の課題	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を正しく読み取る力</li> <li>語彙力</li> <li>話す力と書く力を中心とした自己表現力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論理的な思考を苦手とする生徒が多い。</li> <li>漢字を書くこと、語彙を適切に用いることが十分身につけていない。</li> <li>書き言葉と話し言葉の区別を場面に応じて使い分けることが苦手な生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を理論的に読む学習活動を授業で繰り返す。</li> <li>定期的に小テストを実施する。</li> <li>プレゼンテーション形式のスピーチ発表の場を設ける。</li> <li>意見文の作成など、構成力と推敲する力を高める。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的な課題に対する関心</li> <li>基本的な知識</li> <li>社会的思考力、判断力</li> <li>学習したことを活用する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識を繰り返して定着させることに苦手意識をもっている。</li> <li>地図、資料、史料の分析を苦手とする生徒が多い。</li> <li>H30「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の採点結果から、読み取った情報を関連付け、推測することを苦手とする生徒が多い。</li> <li>自分の意見等を発言することが苦手な生徒がいる。</li> <li>基本的な学習習慣がついていない生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストを繰り返す。</li> <li>ワークシートの発問の中で論理的思考を養う練習を行い、統計資料や地図も見やすく、分かりやすいものを提示する。</li> <li>ワークシートで複数の資料を比較・関連付けて読み取り、読み解く力をのばす課題を増やす。</li> <li>発言の機会を増やす。</li> <li>試験対策プリントを作成する。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な知識・技能</li> <li>数学的な考え方</li> <li>学習したことを活用する力</li> <li>思考のプロセスを表現する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には素直に取り組み、中～上位層は安定しているが、一部苦手意識があり、計算等の基本的な技能や文章を正確に把握する力が不足している生徒がいる。</li> <li>文章問題や図形の証明（解法の筋道を記述する表現）に対して、苦手意識が強く、学習の意欲が低下する生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各コースにあった授業展開を工夫する。</li> <li>ワークシートなどを使い、考える場面や演習の時間を多くとる。</li> <li>図形等の証明については、既習の内容に立脚して証明を組み立てる必然性を理解させる授業展開を工夫する。</li> <li>問題を解くために、要点を把握して、それをどのように利用するのかを自ら探して考えられる姿勢を伸ばす。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的な思考と表現力</li> <li>自らの考えをまとめ、表現する力</li> <li>基礎的な知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験・観察には興味がある生徒が多いが、その結果を表・グラフなどを活用しまとめることや、論理的な考察を書くことが苦手な生徒も多い。</li> <li>基礎的な用語を時間が経つと忘れてしまう生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で予想を立てて実験に取り組みさせる。その結果をワークシートなどで確実にまとめるようにする。</li> <li>実験結果をもとに、ICTを用いた話し合い活動などにより考察し、まとめ、発表を行う機会を積極的にもつ。</li> <li>小テストを繰り返す。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語力</li> <li>学習したことを活用して書く力</li> <li>音読やスピーチ等における表現力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語への興味関心が高く、積極的に音読したりコミュニケーションを図り意欲的に取り組む生徒と、基本的な単語を書いたり、読んだりするのが苦手な生徒との差がある。</li> <li>英文の語順をあまり理解できていない生徒がいる。</li> <li>まとまった英文を書くことが苦手な生徒がいるが、書くことに慣れてきた生徒も増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に単元テストを実施し、基本語彙・構文の定着を図る。</li> <li>各単元をすべて暗唱させ、英文の語順に慣れさせるとともに、まとまった英文の形を身につけさせていく。</li> <li>ワークシートを用い、英文を書くパターンを理解させる。</li> <li>まとまった英文を書いたり、スピーチの機会を増やし、英文を書くことや話すことに慣れさせる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>音や音楽への興味・関心を養う</li> <li>生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる</li> <li>創意工夫して表現する能力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識の習得に意欲的な生徒は多いが、実技能力の向上に対して意欲が乏しい面が見られる。</li> <li>リコーダーに関しては、得意な生徒と苦手な生徒の差が大きくなってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の最初に、丁寧に復習を行う。</li> <li>歌は、自信をもって歌えるようになるまで繰り返し練習する。</li> <li>リコーダーは、電子黒板で運指を示し、どの生徒にもわかりやすいようにする。</li> </ul>
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な表現力や技能</li> <li>課題に即した発想や構想の力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な知識や技能は理解しているが表現力に乏しい面が見られる。</li> <li>構想が思いつかず、作業が遅れている生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発想・構想力を高めるため、発想・構想のきっかけとなるような参考作品を多く提示する。ICT機器を利用した提示法の工夫をより多くする。</li> <li>個に応じた個別指導をする。</li> </ul>
保・体	<ul style="list-style-type: none"> <li>心と体を一体としてとらえ理解する力</li> <li>生涯にわたって運動に親しむ力</li> <li>健康の維持増進のための実践力</li> <li>明るく豊かな生活を営む態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団的スポーツを好む生徒が多く、個人的スポーツにおいて苦手意識からは向上意欲に乏しい傾向が見られる。</li> <li>話し合いや相互観察による助言等において、言語で表現する力が弱い生徒も見られる。</li> <li>習得した知識を運動実践に活用する思考力・判断力が低い傾向が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現時点からの向上を周囲が認めることにより、喜びを味わわせ、学習意欲を向上させる。</li> <li>話し合いや、ワークシートへの文章記述により、動きをイメージできるよう運動を言葉でどのように表現するかの言語的スキルを向上させる。</li> <li>技能の習熟度に応じて、個の指導の充実を図る。</li> </ul>
技・家	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な学習内容の定着と応用</li> <li>横断的な知識の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大多数の生徒は基礎的な製作の技能が身に付いている。</li> <li>他教科の学習内容も踏まえ、論理的に知識を応用する力が不十分。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>類似する事例や適用例について考え、発表する機会を増やす。</li> <li>適用例を多くあげ理由を考えることで既習の知識を活用する機会を増やす。</li> <li>製作のスキルを上げるために、作品の細かな部分の製作技術を指導する。</li> </ul>

	伸ばしたい力	現状の課題	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>書く力を中心とした表現力</li> <li>語彙力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様なジャンルの文章に対して、様々な視点から物事を考え、自分の考えや思いを書く力や語彙力が不十分である。</li> <li>クリティカルな文章を書くことが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞コラム学習など、様々なジャンルに触れる機会を作り、それに対して自らの考えを書く活動を展開していく。</li> <li>個別添削指導を継続するとともに、読書指導を通じて語彙力を高める。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な知識</li> <li>公民的資質の向上</li> <li>時事問題への興味関心を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H29「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果は、都平均を大きく上回っているが、「思考・判断・表現」と読み取った資料を活用して「課題を解決する力」に課題がある。</li> <li>政治的課題や社会問題について、状況を分析して自分の考えをもち、発信していく力は弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストを繰り返す。</li> <li>新聞や図書等から思考力を高める記事を選び、生徒に提示する。</li> <li>討論の授業によって、意見を発表する訓練をする。</li> <li>授業内容との関連で、時事問題にあった話題を提示していく。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量や図形に関する基礎的・基本的な知識・技能</li> <li>数学的な思考力・表現力</li> <li>身につけたものを利用し、説明するための能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>間違いがあった場合、なぜ違うのかを分析し、説明することが苦手な生徒が多い。</li> <li>「数と式の計算」は得意とするが「図形の論証」や「関数」といった思考を伴う内容を苦手とする生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考させ、書かせたり発表させたりする場面を取り入れる。</li> <li>指導内容を精選し、習熟度別コースにあった指導方法を取り入れることにより、演習時間や考える時間を多く確保する。</li> <li>問題演習を多く取り入れることで、計算能力を伸ばすとともに、多様な発想から問題解決へと導く練習を行う。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次からの基礎学力</li> <li>科学的な思考と表現力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に対する姿勢がより真剣になってきて意欲的に学習に取り組んでいる。</li> <li>苦手意識をもつ生徒や基本事項が身につけていない生徒については、基礎的な内容の復習が必要である。</li> <li>実験結果を考察し、自分の考えを文章にする力が弱い生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題演習を行う際、文章で答える問題の練習を多く取り入れる。</li> <li>授業において現在学習している内容と既習事項の関連を意識的に説明することで、毎時間1・2年の内容の復習を行う。</li> <li>小テストを繰り返す。</li> <li>実験のまとめを行うときに、意見交換を行わせ考えをまとめやすくする。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語力、熟語力</li> <li>書く力（作文力）</li> <li>読む力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語への興味・関心が高く、積極的に音読やコミュニケーション活動に取り組み、意欲的に取り組む生徒と、基本的な単語を書いたり、読んだりするのが苦手な生徒との差がある。</li> <li>まとまった英語を読むことができる生徒が増えている。</li> <li>単文ならできるが、まとまった英文を書くことを苦手になっている生徒がやや多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に単語テストや基本文テストを行い、新出単語や重要な文法事項の確認を行い、定着を図る。</li> <li>既習の英文を活用して、ワークシートで英作文を書く練習をさせる。また既習内容を活用して英文を書くパターンを学ばせる。</li> <li>各単元をすべて暗唱させ、英文の語順に慣れさせるとともに、まとまった英文の形を身につけさせていく。</li> <li>まとまった英文を書く機会やスピーチ、コミュニケーション活動の機会を増やし、英文を書くことや話すことに慣れさせる自信を持たせる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>音や音楽への興味・関心を養う</li> <li>生涯にわたって音楽に親しんでいく態度</li> <li>創意工夫して表現する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽に対する興味・関心は高く、知識の習得や実技能力の向上に対して意欲的な生徒が多い反面、苦手意識から授業に対する意欲が乏しい面も見られる。特に、器楽では表現力や技能に課題がある。</li> <li>鑑賞に関しては、感じたことや思ったことを言葉にして表現することが苦手な生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎知識や既習曲の定着のため、ワークシート型のプリント演習を定期的に行う。</li> <li>自ら体験（演奏、歌唱など）する時間を増やす。</li> <li>一人一人にきめ細やかな指導を心がける。</li> <li>感じたことや思ったことを自由に表現することが大切だということを伝え、書くことに慣れさせる。</li> </ul>
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術への興味関心を高める</li> <li>発想や構想の力を養う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大変熱心に取り組む生徒が多く、課題に取り組むための資料収集など積極的に取り組む。しかし、自由な発想については取り組みに苦勞する面が見られ、表現力に乏しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発想・構想力を高めるため、発想・構想のきっかけとなるようなトレーニングをワークシートやグループワークをしながら行う。また、参考を多く提示することで発想をさらに広げられるようにする。ICT機器を利用した提示法の工夫をする。</li> <li>個に応じた個別指導をする。</li> </ul>
保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>心と体を一体としてとらえ理解する力</li> <li>生涯にわたって運動に親しむ力</li> <li>健康の維持増進のための実践力</li> <li>明るく豊かな生活を営む態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力面と技能面において、生徒間での差が顕著になってきている。</li> <li>自らの課題を見つけ、改善策を考えることが苦手な生徒がいる。</li> <li>教え合い・学び合い活動に意欲をもって取り組むことができているので、さらに、学びを深める工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツを生涯学習ととらえ、自ら楽しく運動する環境を整える。</li> <li>ICT機器を活用し「視覚的理解・思考、判断を深める」提示法の工夫。</li> <li>課題解決における協働学習の方法（人数・ワークシート等）を工夫することで、言語活動の充実を図る。</li> <li>個に応じた指導の充実を図る。</li> </ul>
技家	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の内容と他教科の学習内容との横断的な活用力</li> <li>目的達成手段の検討評価と適用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科や数学、国語など他教科の知識や技能を応用し、工夫し活用する力が不十分である。</li> <li>目的を実現する複数の手段を検討し、最適な方法を用いて実現する力が不足していると感じられる生徒が多い。</li> <li>技術的な知識を習得する能力や意欲はあるが、得た知識を実技などに活用・応用できていない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例や他の生徒の考えを分析し、工夫した点について発表したり、自分の考えを再構成する機会を増やす。</li> <li>参考事例を用い、実現方法の検討と理由についての共有を通して直接、間接的に経験を増やす。</li> <li>机上で考えるべき構想・設計とそれに基づく製作の境・区別をハッキリとさせ、知識を実技に活かす機会を増やす。</li> </ul>